

DRAWING ドローイング

鈴木ヒラク

点・線・面からチューブへ

DRAWING
ドローイング

点・線・面からチューブへ

鈴木ヒラク

左右社

SHINJUKU

長いまえがき

004

第1章 ドローイングとチューブ 1

027

あらゆる線は境界線である／線は接続し、分割する／チューブが交通を生む
／都市の網と遊べ／道具としてのチューブ／身体Ⅱチューブ／精神もまた
チューブである

第2章 ドローイングとチューブ 2

057

線の進歩主義／線を生きる／描写するか呼応するか

第3章 ドローイングと発掘

075

未来を思い出す／ドローイングという考古学／ドローイングを発見する／人
間なきドローイング／自然と人間の境界上に現れるドローイング／人間の内
側から発掘されるドローイング

第4章 ドローイングと書くこと

114

子供という古代／「かく」ことの構造／マーカーが発掘するもの／雑草がかく
／離陸するエクリチュール／描くと書くの探究史／ネガティブハンドとグラ
フィティ／大気、そして農耕・登山／穴を開けること／ラップというドロー
イング／光の記号／未知に触れるスタイル／複数性へと向かうドローイング

第5章 ドローイングと空間・時間

191

都市のコウモリ／脳、網、粘菌／チューブ、ロープ、テープ／伸び縮みする
線／身体という楽器／ドローイングの魔法／HIP HOPとダブ／写真術と
ドローイング

第6章 ドローイングと対話

228

糸電話がつなぐもの／媒介としてのドローイング／テレドローイング／ドロー
イング・オーケストラへ／他者の線と出会うこと／ライブでかくということ

あとがき

265

第1章 ドローイングとチューブ1

あらゆる線は境界線である

ドローイングは線を生み出したり、見出したりすることだと書いた。
では、線とは何だろうか？ 線は、現実世界においてどのような機能を持つのだろうか。

オノ・ヨーコに〈この線はとても大きな円の一部分である〉(1963)という初期の作品がある。白い紙の上に、おそらく定規を当てて、黒いペンで描かれた1本の直線。その下に「この線はとても大きな円の一部分である」と書かれている。この1本の線から何を想像するだろうか？

まずは、水平線かもしれない。最初に地球が丸いことを発見したのは、船乗りだという。景色のなかで見る水平線は、海と空の境界として平らに広がっていくようだが、わずかに弧を描いている。そして、両端をそのまま引き伸ばしていくと地球という惑星の輪郭を一周する。つまり文字どおり、地球サイズの円を描くことになる。

This line is a part of a very large circle

1-1 | Yoko Ono, This line is part of a very large circle, 1963

